

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス あんプラス		
○保護者評価実施期間	令和6年9月24日		～ 令和6年10月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	令和6年9月24日		～ 令和6年9月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童が安心して通える場所であり、楽しみに通所していること	イベントの企画は保護者や児童からのリクエストを取り入れ、プログラムを固定しないようにしている。 他児童との交流を深められるような声掛けや支援を行っている。	保護者が一緒に参加できるイベントを企画したり、通所している方のニーズを聞き取ったり、サービスを提供できるようにしていく。
2	中高生向けのプログラムでは社会的スキルを身につけることや、自立に向けての支援することができる	小学生と中高生のプログラムを明確に差別化することで、中高生の自己肯定感にもつながるように心掛けている。 実際の公共交通機関の利用や支払いなど、社会に出て必要となることの経験をつめるようにしている。	より経験を多く積んでいけるように多様なプログラムを企画していく必要がある。 利用児童が固定化し、マンネリ化しないようにしていく。
3	利用児童の成功体験を積み、自信をもっていけるような支援をしている 一人一人のニーズに合わせた支援をしている	マンツーマンでの支援では一人一人の声を丁寧に聞き、寄り添った支援を心掛けている。 失敗ではなく、成功体験を多く積んでいけるような声掛けや支援を心掛けている。	利用児童との会話を通して信頼関係をもてるように今後も引き続き関わりを持っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会の活動の支援や開催の頻度が少なく家族向けの支援の機会が少ないこと	他施設との交流や関わりを望まないご家庭もあるため、家族や兄弟向けのイベント等の企画は今年度出来ていない。	家族や兄弟参加可能なイベントも今後長期休暇や祝日などを通して企画していく必要がある。
2	生活空間はバリアフリー化に対応していない	車いす利用の児童へは職員が個別に対応していき、安全に通所していただけるようにしている。 教室内では危険がないように職員が必ず傍で対応するように心掛けている。	施設の段差などの問題は、通所している利用児童の安全を第一に考え、職員が個別に対応していく。 必要に応じて施設のバリアフリー化も検討していき、安心して通所していただけるようにしていく。
3	サービス計画「本人支援」「家族支援」「移行支援」で示す内容はより詳細にする必要がある	面談時に利用児童の様子や課題などを聞き取り、ニーズを把握していくことが不十分なため、サービス計画に反映しきれていなかった。 送迎がなく利用児童が自ら通所している家庭も多い為、情報共有が不足している。	面談時だけでなく、日々の様子などを電話などを通して保護者と情報を小まめに共有していく。